

千葉県 農事組合法人 和郷園

JGAP



OGAP手法取組の概要

「平成14年から自主管理基準を設け、農薬や肥料、生産情報の管理のレベルアップに取り組む。

平成17年からは、個々の生産者に対してJGAPの認証を推奨し、生産者の意識の向上と合わせて取引先からの信頼を高める取り組みを行っている。

OGAP手法導入のきっかけ、経緯

日本におけるGAPの作成と普及を目的とした平成16年度総合食料対策事業に参加したのをきっかけに、生産現場におけるGAPの必要性を認識する。それまでの、自主基準を精査し、生産者を集めての会議や、個々の生産現場において工程管理の精度を高める取り組みを進めるようになった。

OGAP手法導入に関し、工夫した点等

あくまで、生産者の自主性を重んじ、各自が必要性を十分認識した上で、取り組みを開始。個別の相談に応じるようにし、各自の生産事情にあった管理を提案のうえ、認証を受けるようにした。

OGAP手法導入によるプラスの効果等

多くの農場でいままで以上に、整理整頓が進み、取引先などの案内時に、不要の気遣いが減少した。また労働環境の改善、役割りの明確化などにより雇用者が主体性を持って労働するなどの意識の向上も見られる。

○実践者からのコメント

- ・作業場の整理整頓が出来、家族の農産物を商品として扱う意識が向上した。
- ・情報の整理は少し負担だが、他者に対する説明がスムーズになった。

